保育かながわ

発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
一般社団法人
神奈川県保育会
発行人
都築融光
題字
故内山岩太郎筆

「ワクワク・マグネット神奈川」を目指して

神奈川県県知事　黒岩祐治

神奈川県保育会の皆様には、日ごろから本県の保育行政の推進にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、この国を揺るがし、多くの人々のいのちを奪った東日本大震災から半年余りが過ぎました。まだまだ不自由な生活を余儀なくされている被災された皆様に、改めて心からお見舞い申し上げますとともに、県内の保育の現場で、震災発生後の計画停電や、夏期の節電体制の下での保育に、さまざまな工夫を重ねながらご尽力いただいている皆様に感謝申し上げます。

私は、この震災直後の4月に知事に就任して以来「いのち輝くマグネット神奈川」を目指し、県政の課題に取り組んでおります。平仮名で書いた「いのち」、私は、これまで、ジャーナリストとして救急救命士誕生につながった救急医療のキャンペーンに取り組むなど、一貫して「いのち」にこだわってまいりました。

そして、私がこだわるもう一つの言葉、それは「マグネット」です。マグネットとは磁石です。「マグネット神奈川」というのは、行ってみたい、住んでみたいと思わせる、まさに人を引きつける魅力にあふれた憧れの神奈川という意味です。

子育て支援につきまして、私は、就任前から「子供を産んで育てたくなる環境」「ワクワク・マグネット神奈川」を目指しますと県民の皆様に訴えてまいりました。「子供を産んで育てたくなる環境」とは、妊娠・出産から育児まで、子育て家庭が地域のつながりの中で、孤立せず、安心して子育てができ、子どもが愛情を受けて育まれる地域社会であると考えております。

その実現のため、本県では、周産期医療の充実や妊娠期からの相談体制の整備などの出産・育児を応援する環境づくりや、保育サービスの充実などの働きながら子育てできる環境整備を進め、「子どもを産むなら神奈川、子どもを育てるなら神奈川」と言われるような、子育てがワクワクするほど楽しい「ワクワク・マグネット神奈川」を目指してまいります。

最近の保育をめぐる状況を見ますと、少子化が進む一方、昨今の経済情勢の厳しさを背景に保育ニーズが増大しており、待機児童の発生が引き続き大きな問題となっております。本県におきましても、平成23年4月1日時点の待機児童数は、「安心こども基金」を活用した保育所整備による定員増が図られ、昨年度より1022名減の3095名となったものの、引き続き高水準にとどまっております。

そこで、今年度限りとなっている「安心こども基金」のさらなる活用により、待機児童の約8割を占める低年齢児の受入枠拡充のため、保育所の新増設を図っていくことが喫緊の課題となっております。基金による整備につきまして、保育関係の皆様の一層の取組みをお願いいたします。

最後になりましたが、神奈川県保育会の皆様におかれましては、保育を通じて、子どもたちの「いのち輝くマグネット神奈川」の実現にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

第45回 神奈川県保育事業大会

～すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして～

平成二十三年四月二十三日に、第四十五回神奈川県保育事業大会が、神奈川県社会福祉会館にて開催されました。当日は、時折り激しい雨が落ちる生憎の天候ではありましたが、大勢の皆様の出席により、盛大に執り行う事が出来ました。

今年二月、創立五十周年記念大会の時にお披露目となった、『かなわん』も登場して、会場入り口でご来場いただいた皆さんをお出迎えし、記念撮影をする姿が沢山見受けられました。

定刻の十時となり、真壁総務部長の司会により、式典が進行され、宮田副理事長より開会のことば、その後に「花のおさなごの」の斉唱と児童憲章の朗読が行われました。

続いて、主催者を代表して都築理事長より、三月十一日に東日本を襲った未曾有の大震災、被災された地域の復興に、この神奈川からも出来る限りの支援を続けていきたいなどのあいさつがなされました。

その後、永年勤続表彰が行なわれ、本年度は六十三名の表彰者に賞状と記念品が授与されました。また、昨年大臣表彰を受けられた方と保育賞を受けられた方にも記念品が贈呈されました。壇上には、式典の前に入口でお出迎えした、『かなわん』も再び登場し、表彰式に暖かい雰囲気を添えていました。

その後、来賓を代表して、神奈川県保健福祉局福祉・次世代育成部長の加藤様をはじめ多くの方からご祝辞を頂き、祝典は大変スムーズに運営され、冨田保育士会長の閉会のことばにより閉会致しました。

その後、会場を移し、保育会総会が四階の研修室で行われ、第一・第二研修室を繁げての会場にもかかわらず、大勢の方々の出席により、会場は満員となりました。

議事は、平成二十二年度事業報告および決算報告。創立五十周年記念大会事業報告および決算報告。その他として、東北地方太平洋沖地震に関わる被災地支援募金活動への協力についての三点が審議され、各議案とも全て承認されました。

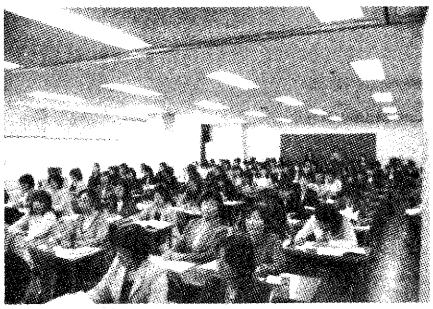
午後からは、研究発表が三会場に分かれ行われました。

第一会場

第一会場は、三つの研究発表が行われました。

まず始めに、小田原市保育士会保育内容研究委員会による「0・1・2歳の現状と保育・子育て支援のあり方～心も身体も健康に……おいしく食べて元気に遊ぼう！～」をテーマに研究発表が行われました。

六年前から積み重ねてきた「食」や「睡眠」「生活リズム」についての研究を踏まえ、更に深く研究してきた内容を織り込み、事例を交えながらの発表は、保育士の専門性を如何なく発揮されていた内容でした。



続いて、藤沢市保育士会研究会による発表でしたが、パソコンの不具合があり、先に、秦野市保育士会保育内容研究会による「エコを意識した保育～子どもの心を育てよう～」をテーマとした研究発表を行いました。

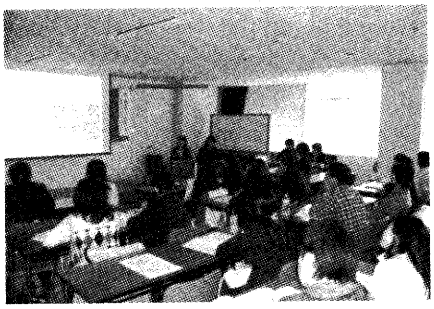
子どもたちに、自然や物の大切さを意識させ、考える心を育てていくことをコンセプトに、日常的な物から玩具まで、様々な廃材を利用した物を紹介してくれました。時宜にかなった内容で、参加者も大変関心を持ち、特に牛乳パックで作った玩具の周囲には、終了後多くの参加者が興味を持って見に集まり、手に取っている姿が見られました。

最後に、藤沢市保育士会研究会による「ことば～コミュニケーションの力を育てるために～」をテーマに研究発表が行われました。年齢に応じた豊かなコミュニケーション能力をどのように育んでいくかを、日頃の保育経験で感じたこと等を踏まえ、子どもの健やかな成長を温かく見守っていく様子が発表の中で見受けられました。

どのグループも多くの保育士が関わっており、幅広く、そして深く掘り下げた内容で、充実した研究発表でした。

第二会場

第二会場では、大和市公立保育園から「楽しく食べる子どもをめざして～食育の輪を広げよう～」とのテーマで研究発表がなされました。公立各園を「地域育児センター」として位置づけ、「たべよう会」や「あそぼう会」などの事業を展開し、みんなで食べる楽しさを味わい、意欲的に食事をする姿が観られるようになったこと、当初一園で始まったこれらの事業も現在では、全園で実施するに至り、そのほかにも、各園の地域性を活かした事業である「離乳食講座」「まもなくママ講座」等それぞれに栄養士、保健師等と連携を図りながら参加者のニーズに応じた幅広い食に関する支援を行っていることなどの発表がなされました。また、



各月ごとによく噛んで食べよう、みんなで楽しく食べよう、食べ物を大切にしようなど食育活動を有意義かつ効果的に展開し、子どもたちの「食」の安全と健やかな育ちを支えていきたいとの発表がありました。

二番目は、フリーテーマとして神奈川県保育士会保育内容研究会から「子どもと睡眠～生き生きと遊ぶために～」の発表がありました。保育園での子どもたちの姿だけでなく、家庭での姿の把握や保育者へ生活リズムを見直すきっかけになればとの思いで、「朝は何時に起きていますか、夕食は何時に食べていますか、何時に寝ますか、お昼寝は必要ですか」などのアンケートを実施した回答をいただいた中で、規則正しい生活を送っている子どもがいることも判明し、保護者が様々な悩みを抱えていることも把握できたとの発表がなされました。

また、質の良い睡眠を得るための十三項目(朝日でからだを目覚めさせる。早起きの習慣をつける。寝る前にコップ一杯の水を飲む。寝るときは部屋を暗く等)を例示し、アンケートからあがってきた疑問や質問に答えるため、保護者へのお便り「これでお悩み解消！こどもの睡眠」を発行したことも発表されました。

第三会場

第三会場は、フリーテーマとして、まず、「ボール遊びについて～ボール遊びを通して育つもの～」として、座間市保育士会研究会より、身近にあるボールを使い、各月齢年齢に応じたボール遊びの提供の仕方、素材選びなどの研究内容の発表が行われました。それぞれの年齢に合わせた、ボールの形状や素材により、子ども達の興味関心等を刺激して様々なあそびに広がりを持って繋がっていくとまとめられました。

次に、「身近なおもちゃで遊ぼう～ペットボトル・キャップ・ボタン・洗濯ばさみを使って～」という内容で、平塚・中郡保育士会保育内容研究会の発表が行われました。大変

身近にある本来はおもちゃとしては使われる事の少ない素材を、様々な工夫によりおもちゃとして提供することで、遊びが展開し、子ども達独自の発想で発展していくことが報告がされました。

最後に、「親子あそび～親子のふれあいのために～」として、鎌倉市保育士会研究会による発表が行われました。鎌倉市保育士会が取り組んできた、子育てサロン内での活動報告がなされ、楽しい音楽に合わせての遊びや手遊び、ミニシアターなどの発表が行われました。第三会場は講堂を使用していたこともあり、最後の発表では、会場全体を巻き込みながら、一緒に手遊びやリズム遊びを体験しながらの発表となりました。

全ての発表が終了したステージ前には、当日発表を行ったそれぞれの団体より、取組に使ってきた遊具等が展示され、発表終了後にも、それぞれの担当の方々に個別の応対をして頂き、大変充実した第三会場の発表となりました。

第52回　関東ブロック
保育研究大会
～すべての子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して～

平年より十二日も早く梅雨が明けました。電力不足での節電も加わり、只でさえ暑い会場は暑さもひときわ。二日目の最高気温は三十二度を超え、大会資料に入れられていたセンスの良い団扇が手放せない二日間となりました。

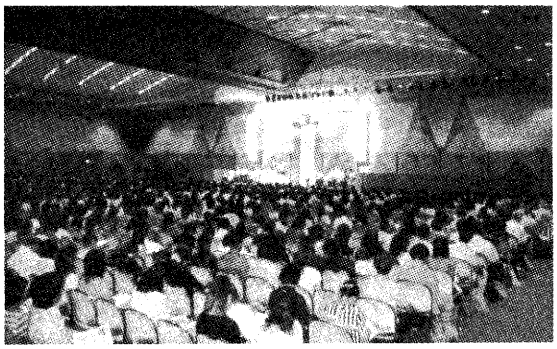
平成二十三年七月十四日から十五日にかけて、震災での液状化の爪痕が残る千葉県千葉市に於いて、第五十二回関東ブロック保育研究大会が開催されました。神奈川県からは参加者割当を上回る総勢五十一名。全体では、一千余名の人びとが会場の幕張メッセ国際会議場に集まり盛大に開会されました。オープニングでは、「和太鼓総」による創作太鼓演奏が行われ、その力強い演奏に会場全体が魅せられておりました。

開会式は、大会運営委員長でもある千葉市保育協議会会長の歓迎のことばに続き、花のおさなご斉唱と保育関係物故者への黙祷、児童憲章の朗読。続いて、主催者を代表して、千葉市長、関東ブロック保育協議会会長のあいさつの後、来賓を代表して飯島俊勝全国保育協議会副会長のあいさつをいただきました。その後、来賓並びに主催者の紹介と感謝状贈呈が行なわれ、最後に「大会決議宣言」が読みあげられ滞りなく式典が終了いたしました。

基調講演は、淑徳大学総合福祉学部教授の柏女霊峰氏より、「こども・子育て新システムと保育」とのテーマでご講演頂きました。ご承知のとおり氏は、新システム作業グループ幼保一体化WTの構成員としてご活躍されており、保育施策の推移から中間とりまとめに至るまで、大変丁寧にご解説頂きました。その後の記念講演は、「保育にもっと笑顔と笑いを～子どもたちの生きる力を育てるために～」とのテーマで、社福等の理事長でもあり、保育園の施設長でもあり、児童精神科医でもある北畑英樹氏よりお話しを頂きました。氏はその他にも上方落語もこなす多彩な方で、色々な問題が取り沙汰されているが、なにより良くないことは「経済至上主義の考え方」であることや「ハッピー」すなわち笑顔の大切さなど、その卓越した話術で会場内は大爆笑。全参加者がハッピーな気分で講演が終了しました。

その後、次回の当番都県市の栃木県の皆様からあいさつをいただき一日目を終了いたしました。

二日目は、特別分科会を含め九分科会に分かれ研究発表が行われました。私たち神奈川県の代表として、第二分科会に小田原市の廣井喜代美先生(小田原乳児園)・渡邊千幸先生(豊川保育園)・鈴木協子先生(荻窪保育園)・坂田真澄先生(みゆき愛児園)・皆川節子先生(城前寺保育園)による「0・1・2歳の現状と保育・子育て支援のあり方－心も体も健康に…おいしく食べて元気に遊ぼう！－」。そして、第五分科会には、大和市の町田智子先生(深見台保育園)・保田雅美先生(草柳保育園)による「楽しく食べる子どもをめざして－食育の輪を広げよう－」をテーマに両会場で発表がなされました。また、第三分科会の議長を平塚市真土すばる保育園の真壁洋道副理事長が務めました。



なお、一日目終了後に研究発表と議長を務められる方々に、保育会主催で激励会を行いました。

第二分科会

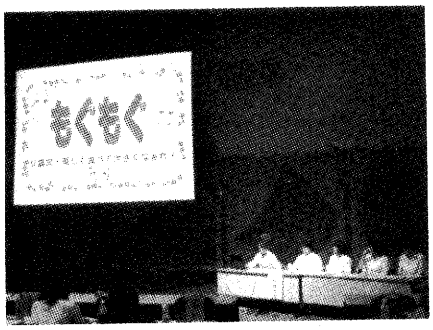
第二分科会は、「0・1・2歳の現状と保育・子育て支援のあり方」とのテーマで四つの研究発表がなされました。

最初に、栃木県壬生町立保育園から『「あの子どんな子」その子にあったより良い保育をめざして』と題して実践例の発表がありました。色別の付箋紙に記録することにより、子どもをより深く理解した相互性を持つ保育が展開され、子どもの発達保障と親の支援、職員の質の向上に繋がることが出来たと発表されました。

二番目は、山梨県峡南地区保育士会保育内容研究委員会から「子育ちと子育て家庭を支える保育所となるために」と題し、アンケートを元に、手作り玩具での子育て支援を行った結果、子育てを楽しもうとする親の姿が見られ、保護者とのコミュニケーションがより深められたとの発表がなされました。

三番目は、横浜市保育福祉部会から「子育ちと子育て家庭を支えている保育園に期待されていること」と題して発表がなされました。アンケートでは保育園に対して支援的な機能を求める声が多かった。今後、基本的な考えなどを発信する事により不安の軽減が図られ、支援に繋がるとまとめられました。

最後に私たち神奈川県の代表である小田原市保育士会内容研究委員会から「心も体も健康に…おいしく食べて元気に遊ぼう」と題して発表がなされました。アンケートの検証結果から、食から子どもや親の状況が把握出来ることから、その食を通してアプローチすることにより子育て支援に繋がるとの発表がなされました。



発表終了後、助言者で東京家政大学講師の井桁氏より、子育て支援には、地域や園によって様々な工夫があり、どの地域でも出来るものである。また、研究内容をしっかりと振り返ることにより、より良い支援に繋がるとの助言をいただき分科会は終了しました。

第五分科会

第五分科会は、「家庭との連携による食育の推進」とのテーマに沿って四つの研究発表がなされました。

最初に茨城県那河市瓜連保育園より「え、手作りが負けるの？こんなに身近にあった子どもたちの危機感…ある日の給食会議より」と題しての発表がなされ、手作りプリンの残食が多いと言う事実から、手作りプリンと市販品を子どもたちに食べ比べてもらうと七割強の子どもたちが市販品を選んだ。「甘み・香り・弾力」との理由で、材料比較により付加物が原因と分かり、食の安全について情報を発信し、少しずつ保護者が意識し始めたと発表されました。

次に私たち神奈川県の代表である大和市から「楽しく食べる子どもをめざして－食育の輪を広げよう－」と題して発表がなされました。乳幼児に関する課題や保護者の悩みを明確にして、保育課程を含めた食育計画を作成し、子どもが食べたくなる様なメニューを考案したり、地域の親子にも育児不安の解消や食に関する支援を行っているとの発表がなされました。

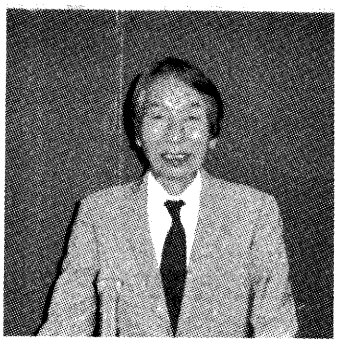
三番目は、山梨県中巨摩保育内容研究委員会から、「今だからこそ保育園と家庭・地域で進める食育－未来ある子どもたちのために－」と題して発表がなされました。以前より進めてきた「保育園と家庭ですすめる食育」の継続研究で、保育園の様々な食育実践が出発点となり、地域における食育活動の本を作成したことや米作りや野菜作りなどの実施報告がなされました。

最後に長野県松本市南松本保育園より「畑つくりを通して食・人・自然とのかかわりを豊かにする保育」と題して、畑で様々な作物を作り、世話をし成長を見守り食べる。収穫物を生かした保育活動や給食のあり方と保護者への具体的な働きかけを行い、食育を通して健康や表現など全てに繋がることが出来たとの発表がなされました。

発表終了後、助言者で大妻女子大学講師の森岡氏より、子どものための食育とは、「子どもたちをどう育てるのか」と言うこと。子どもの姿を忘れず、子どものために現場の声を多く吸い上げて欲しいとの助言をいただき分科会が終了いたしました。

新任保育士研修会

平成二十三年六月二十七日に、岩崎学園を会場にして新任保育士研修会が開催されました。百三十二名の方が参加し、「思いやり保育」と題して保育コンサルタント・駒沢大学講師の塩川正人氏の講義を受けました。



東日本大震災と原発事故は多くの日本人の魂を揺さぶりました。今までの豊かさを疑い、自分さえ良ければと突き進んできた社会から、お互いが思いやる家族や地域との絆を大切にする方向へと変わってきています。

「思いやり」とは、相手の身になって①手伝う②励ます③ありがとうの三原則を実行することです。

一生の幸せの土台になる「思いやり」を育むのは乳幼児期が一番。保育園から子ども達へ、そして保護者へと伝えていきましょう。家庭から地域にそして日本中に広めて行きましょうと語る先生の熱い思いが伝わってきました。

午後からは二十のグループに分かれてこれからの実践に向けて、思いやり保育の特徴・自園で何をしたいか・どのような効果を目指すのか・報告の仕方や役割について、熱心な討議・報告がありました。

先生からは、グループ毎の発表に対しての思いやり溢れたアドバイスや励ましがあり新任保育士の皆さんは輝く笑顔で会場を後にしました。

以下、参加者の声です。

○すぐ実行できるような事なので、是非やってみたい。

○保護者への対応等勉強になりました。

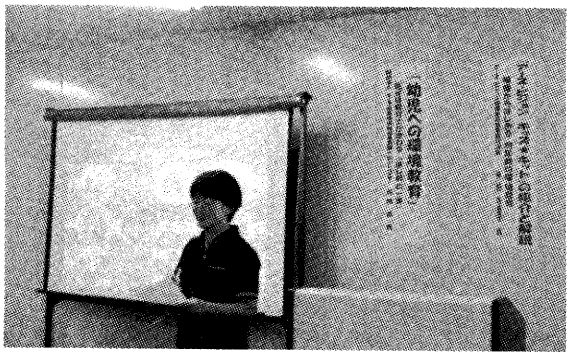
○グループ討議は色々な考えの人がいて参考になりました。

○情報交流出来て楽しかった。

保育専門講座Ⅰ

平成二十三年九月八日、神奈川県社会福祉会館において、「保育専門講座Ⅰ」が開催されました。厳しい残暑が続く中、会場には多くの参加者が集いました。

午前の部では「アース・ビジョンキッズ★キッド」の紹介と解説「映像からはじまる幼年期の環境教育」と題してDVDを視聴し、アースビジョン組織委員会事務局長の仲野万里子氏より解説を聞きました。

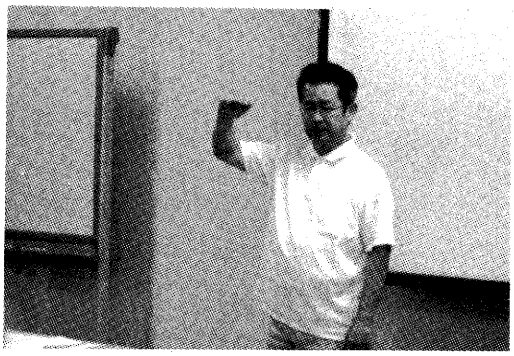


先生は「良質の映像は様々な配慮がなされ、あるいは手間ひまかけて作られており、繰り返し見ても飽きません。ちょうど子どもたちが絵本を繰り返し見て、そのつど新しい発見をしていくのに似ています。子どもたちと一緒に映像を楽しみ、共感することが大切です。また、みずみずしい感性をとりもどすことこそ「環境問題」を理解する第一歩です。」と話されました。

大人の価値観を押し付けるのではなく、子どもの感じ取る力を十分に満足させていきたいと思いました。

午後の部では「幼児への環境教育」～先ずは保育士が変わる「はじめの一歩」～と題して財団法人キープ協会環境教育事業部シニアアドバイザー川島直氏より講義を受けました。

教育とは教え込むことではなく、ひきだす教育が大事である。アナトール・フランスの言葉を挙げ、「たくさんのことを教えることで、あなたの虚栄心を満足させることはやめなさい。火花を散らしさえすれば、火は自然に燃え上がるのです」と教える側の自己満足になってはいけない。子どもは、身をもって体験、発見することで初めて自分のものとして吸収していく。

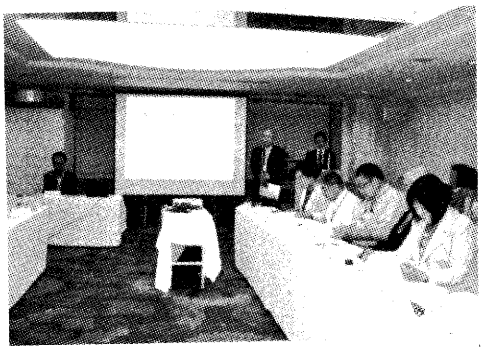


環境教育とは何を学ぶ教育なのか？環境を理解し、環境の問題を理解し、その解決方法を理解するための教育で、大事なことは、素晴らしい自然の中での「実」体験を十分させてあげることを受講者に呼びかけられました。

保育士として出来ることから、「はじめの一歩」を踏み出していきたいと思いました。

県・市町児童福祉主管課長と委員との連絡協議会

今年度の県・市町児童福祉主管課長と委員との連絡協議会は、平成二十三年七月二十七日にホテルキャメロット・ジャパンにて開催されました。協議会には、神奈川県より次世代育成課の井上課長、三枝副課長、川上グループリーダーのご参加を頂き、また十五の市や町の児童福祉主管課長、そして三十三名の保育会委員が参加し、総勢五十一名の出席となりました。



この連絡協議会は、平成三年から始まり、政令市を除く市と町の主管課長と保育会委員が集まり、諸課題について共通の認識を深めると共に、県内各地区の状況などについての情報や意見の交換を行い保育の充実と進展に資することを目的に毎年一回開催されています。当日は、真壁総務部長の司会進行により開会いたしました。まず主催者を代表して都築理事長よりご出席の方々への感謝の念と有意義な会になるようにとのあいさつがありました。その後、出席者全員の自己紹介が行われ議題に入りました。

第一部、今年の議題は三月十一日の東日本大震災が起きた後で「大震災の教訓を学んで実践する！」というものでした。

講師に神奈川県温泉地学研究所次長の杉原英和氏を迎え『地震防災の基礎知識～東日本大震災と神奈川県に影響を与える地震～』のテーマで講演会を行いました。①東日本大震災についてどんな地震だったのか、今後の影響は。についてスライド等を交え丁寧にお話しをして頂きました。お話の中では、東日本大震災では地殻変動により、日本列島が東へ五メートル、海底では二十メートル以上も動き、いかに今回の大地震が大きいものだったかを改めて知ることができました。

②神奈川県に影響を与える地震として（三十年発生確率）「＊東海地震（八十七％）＊大正型関東地震（一％未満）＊神縄・国府津－松田断層帯地震（十六％）＊三浦半島断層群（十一％）＊東京湾北部地震（七十％）＊神奈川県西部地震（約七十年間隔）」が想定されている。実際には地震発生は、発生確率の高さが直ちに起きるというものではなく、また低いから起きないとも限らないとのことで、これだけの地震が起きる可能性が神奈川県にはあるのだということを改めて認識させられました。

③地震災害の種類、震災の教訓について「＊耐震化が命の危険を減らす＊津波からの避難は早くできる限り高い所へ避難する＊避難時はブレーカーを落とす＊安否情報の収集の仕組みを知る＊水・食糧・生活必需物資の備蓄は工夫で＊子ども特有の対策を検討する」事など具体的に教えて頂きました。この講演の後、質疑が行われ、特に海岸に近い各市からは、行政としての今後の防災計画の変更を検討するにあたり、切実な質問等が活発に行われ、関心の高さが表れていました。最後に講師の杉原英和氏から、三月十一日の大震災を経て、行政も含め、防災計画は岐路に立たされている。防災計画全体を見直して行く必要がある。その為には自分たちの住んでいる場所がどんな所なのかを知る事が不可欠で、保育園の場合には何よりも子ども達の命を守るために自分たちに何ができるかを考えて行く必要があるのではないかと提言して頂きました。

第二部、冨田顧問から開会のあいさつを頂き、和やかな雰囲気の中で意見交換会が行われました。最後に桝居副理事長より充実した会であったとの感想を頂き、名残惜しく第二部の幕が閉じられました。

県・市町の連携と保育会との密接な連携・協力を深めていくことにより、子ども達の輝く笑顔をつくり、明るい未来に繋がることを参加者全員で確認した会となりました。

平成二十三年度 関東ブロック保育事業連絡協議会

平成二十三年九月八日から九日にかけ、「水と緑と詩のまち」の群馬県前橋市に於いて、関東ブロック保育事業連絡協議会が開催されました。「保育関係者が今日の課題を持ち寄り、効率かつ効果的事業の運営方策を導くために各組織別により研究・協議する」ことが開催趣旨とされており、参加者は各都県市の保育協議会代表者や事務局、行政や保育士会等と規定され、各地区より総勢百十六名の方々が参加されました。神奈川県からは都築理事長、萩原副理事長、総務・広報の両部長、保育士会の合わせて六名が参加し、各部会に分かれて神奈川県の取り組みや課題など、各都県市の方々と意見の交換を行いました。部会は、保育部会・保育士部会・主管課部会・リーダー育成部会の四つに分かれており、各部会の討議議題は次のとおりでした。

保育部会…子ども子育て新システムや災害対策についてなど十一課題。

保育士部会…危機管理の取組や保育要録の様式についてなど十八議題。

主管課部会…施設機能強化推進費の認定や企業の節電対策の対応など六議題。

リーダー育成部会…リーダー育成への取組やメンタルヘルス対策など五議題。

二日目は、初日に行われた各部会での報告と淑徳大学実践心理学科教授の小川恵氏による「保育職のストレスマネジメント」と題してご講演頂きました。社会の変動による家庭崩壊と余裕のなさからのうつ病が増加。結果、保育職のストレスが増強している。職場の人間関係や自分を信じることの大切さを学びました。

研究大会のお知らせ

平成二十四年度の第五十三回関東ブロック保育研究大会は、平成二十四年七月五～六日の日程で、栃木県日光市の鬼怒川温泉（あさや）で開催されます。神奈川県の参加者割り当て人数は四十五名となっておりますので、皆様のご参加をお願い申し上げます。

また、平成二十四年度の第五十六回全国保育研究大会は、平成二十四年十一月十四～十六日の日程で、沖縄県で開催されます。

なお、関東ブロック保育研究大会の次回の神奈川県当番は、平成二十八年度の第五十七回大会となります。

平成23年度 保育士の専門性を高める研修会

全保協の「保育活動専門員」認証制度対象研修でもある、関東ブロック保育協議会と関東ブロック保育士会が主催する標記の研修会が神奈川県保育会・保育士会の共催で下記のとおり行われます。年度末に向けてお忙しい時期の開催ですが、県内の多くの保育士（5年以上の実務経験者）の皆さまのご参加を心からお待ちしております。

日にち：平成24年2月21～22日（火・水）　定　員：　150名

場　所：横浜ワールドポーターズ6階　イベントホールA　参加費：10,000円

編集後記

東日本大震災による原発事故の関係で電力供給対象にともなう休日保育が実施されたり、猛暑の中、室温を調整しながらの保育室での生活など、子どもを取り巻く環境も大きくかわった夏でした。

関東でも巨大地震がいつ発生してもおかしくない状況の中、災害時の想定が厳しくなり、対応の見直しが急務とされ、また数年は続くと思われる原発事故の影響など考えると、子どもに関わる一人としては胸が痛くなる毎日です。

七十六号は関東ブロック保育研究大会・主管課長との連絡協議会等を掲載しています。今後も神奈川県保育会では、新システムの中でもうたわれているように、質の高い保育の実現に向けた研修など様々なとり組みを計画しています。是非積極的にご参加ください。